

# 平成23年度 授業改善推進プラン

## 1. 学力向上を図るための全体計画

< 多摩市教育委員会の教育目標 >

- (1) 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成：知性、感性、徳性を高め、心身ともに健やかな成長
- (2) 学校・家庭・地域の連携と市民参加の拡充：教育における学校・家庭・地域の連携と協働
- (3) 社会教育の振興と家庭教育の支援：豊かな教養を培い、自己実現を図り、心身の健康の保持・増進

< 本校の教育目標 >

21世紀は、共生と創造の時代  
 社会の変化に柔軟に対応できる、個性的な人材や創造的な人材を育成するために、生徒一人ひとりに「生きる力」をはぐくむ。また、環境や資源を守り、民族の平和を願う信念を培うとともに、豊かに成長することを願い、次の教育目標を定める。

慈 愛    自 主 ・ 自 律    創 造

生徒の実態  
 保護者や地域の願い  
 教職員の願い  
 時代や社会の要請  
 家庭や地域の実態

< 校長の学校経営方針 > (学力向上に関して)

文武両道の教育 (学校行事・生徒会活動・部活動等や学習指導・読書活動の充実)  
 十分な授業時数の確保と、きめ細かな学習指導・評価活動の充実 (指導と評価の一体化)  
 言語活動を中心とした授業の工夫 (校内研修の研究課題として研修。授業研究及び、講演会)  
 基礎・基本の確実な定着 (授業での学習指導と学生ボランティアを積極的に活用した放課後の学習教室)  
 丁寧な学習評価 (個に応じた指導の充実と学習意欲の喚起)  
 生徒や保護者、学校運営連絡協議会委員による授業評価を授業改善に活用 (教員一人ひとりの授業力の向上)

生徒一人ひとりに「確かな学力」を育成するために

- 1 「夢をはぐくむ教育」を実践し、将来に向け豊かな自己実現を図る。
- 2 魅力ある授業を展開し、自ら考え、主体的に取り組む生徒を育成する。
- 3 生徒の実態を把握した上で、基礎学力の向上を図る。
- 4 指導計画・方法や評価計画を改善し、生徒の学習意欲を高める。
- 5 外部の教育力を積極的に活用し、学校生活を充実させる。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内における研究・研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
授業時数の確保 学校行事の精選 放課後の「学習教室」の充実 年間を通した朝読書の実施	国、都の学力調査等による現状把握と改善 学生ボランティアによる授業補助 数学、理科での少人数授業の実施 教科カウンセリングの実施	きめ細かな評価の実践 教育懇談や学習カウンセリングにより、生徒の学習意欲の喚起を図る	学習活動の基礎である「言語力の育成と学力向上について」を研究主題とした研修 研究主題にそった授業研究を実施する 特別支援教育「個に応じた指導」の充実	学校支援地域本部の設立 生徒、保護者の授業評価 学校運営連絡協議会委員の授業観察と評価の活用 P T A と連携の奉仕活動の実施

# 各教科の分析と改善策

国語 【学習状況の分析と課題】		
1 年	2 年	3 年
<p>落ち着いて、正確に聞き取る力が不十分である。</p> <p>書くこと(丁寧な文字・ノート・作品等)に関して個人差がある。</p> <p>漢字などの基礎基本は定着しつつあるが、個人差が大きい。</p> <p>朝読書等、読書に関する力も定着してきた。</p> <p>朗読(音読)に対する取り組みも意欲的である。</p> <p>発言も多く、自分の主張はできるが、それを的確な表現を用いて相手に伝えることは不得意である。</p> <p>素直で積極的に授業に参加し、課題に対しても意欲的に取り組む生徒が多い。</p> <p>家庭学習の習慣が不十分である。</p>	<p>授業も与えられた課題に対しても、大変真面目に取り組む生徒が多いが、積極的な発言等は少ない。</p> <p>学習に対する意欲に関して個人差がある。</p> <p>漢字などの基礎基本は徐々に定着してきている。文字の丁寧な生徒も多い。</p> <p>書くことに関して、個人差があるが、全体的に十分とは言えない。</p> <p>自分の主張はできるが、それを的確な表現を用いて相手に伝えることは不得意である。</p> <p>正確に聞き取る力が不十分である</p> <p>百人一首、短歌作成、変わり身の上話などの作品を作ることにに対しては、大変意欲的であり、発想も豊かである。</p>	<p>漢字などの基礎基本は定着している。</p> <p>正確に聞き取る力が身につけていない</p> <p>朝読書等、読書に関する力も定着してきた。</p> <p>書くことの領域では論理の展開は読み込めても、それに対し評価するところまでできない。</p> <p>語句を単語として知っていても文脈の中で適切に使えない。</p> <p>資料文の情報の中から必要な内容を選び、自分の伝えたいことがらを明確に表現することができない。また、生活面に応用できる国語の書く力がついていない。</p>
<p>&lt;改善策&gt;</p> <p>聞き取り試験や読み聞かせなどの授業を増やして正確に読み取る力を身につけさせる。(全学年)</p> <p>定期的に漢字テストを実施し、繰り返しによって学力定着をはかる。家庭学習へつなげる。(全学年)</p> <p>自己主張を相手に正確に伝えるため、自分の文章を読み返すことを学習にしっかりと位置付けていく。(全学年)</p> <p>文章段落や話しの展開など良く吟味したり、自分の表現を活かしたりすることを指導する。(全学年)</p> <p>文学的文章を読むときに、その文脈中だけで単語の意味を把握するのではなく、生活の中でどんな展開場面があるかを考えさせる。(全学年)</p> <p>資料文や論説文の学習をしたときに、内容把握や論理の展開に時間をかけすぎず、その先の自分はどう評価し、それを他者にどう伝えるかをまとめる練習を増やしていく。また、文章表現に限らず、スピーチなどにも発展させる。(全学年)</p>		<p>&lt;補充・発展指導&gt;</p> <p>意味調べの中で、辞書の用例や短文にも着目させ、文脈に即した使い方を定着させる。(全学年)</p> <p>読書の感想文だけでなく、説明文などについても初発の感想も書かせ、さらに意見交換もさせる。(全学年)</p> <p>漢字定着を目指して、今までのように定期的に小テストを実施すると共に、漢字検定試験に挑戦させ、意欲を高める。(全学年)</p> <p>俳句・短歌などの生徒作品を、外部の作品展に出品させ、生徒の意欲を高める。(全学年)</p> <p>簡単な文章や資料について理解し、整理して意見を述べたり書いたりする学習に力を入れる。(全学年)</p> <p>言語力検定に挑戦する機会を作る。(全学年)</p>

社会 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>授業に対する意欲は高く、けじめのある授業ができる。 理解力はあるが、知識の定着が十分とはいえない。 指示された内容は、まじめに取り組む生徒が多い。</p>	<p>授業に対する意欲は高く、けじめのある授業ができる。 理解力はあるが、知識の定着が十分とはいえない。 指示された内容はまじめに取り組む生徒が多い。 全体的によく発言する。</p>	<p>授業に対する意欲は高く、けじめのある授業ができる。 公民的分野と地理・歴史的分野を関連づけて理解する力を要する。 理解力はあるが、知識の定着は十分とはいえず、言語能力も伸ばす必要がある。</p>
<p>&lt;改善策&gt; 反復学習の場面を作り、基礎・基本の充実を図る。 (全学年) 板書計画を工夫することにより、授業内での理解向上に努める。 (全学年) 発問やワークシートを工夫し、楽しく力のつく授業を工夫する。 (全学年) 高い意欲を発展的な学習と結びつけ、参加型授業で体験した内容を、自分の言葉で発表するなど、言語活動の活性化する授業を企画する。 (2・3年) 授業の中で、図・表・グラフなどを必ず取り上げ、必要な情報を正確に取り出す指導の充実を図る。(全学年)</p>		<p>&lt;補充・発展指導&gt; 社会的用語の定着が難しい生徒の力をのばすため、ミニドリルで補う。(2・3年) 視聴覚教材を効果的に取り入れ、意欲・関心を高め、理解を促す。(全学年) 社会的な用語を体験により理解できるように参加型の授業を取り入れる。(3年) レポートの提出により、関心のある分野を深めていくように指導する。(全学年) 言語活動を重視した授業を行う。(全学年)</p>

数学 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>学習に対する意欲にばらつきがあり、向上心の高い生徒は発言や質問を自発的に行えるが、基礎・基本、特に小数や分数の計算が困難な生徒がいる。 提出物に対する意識が低く、家庭学習が十分に身に付いていない生徒がいる。</p>	<p>おおかた落ち着いて授業に臨んでいるが、家庭学習が定着していない生徒がいる。 どの分野においても、表現・処理は概ね満足出来るが、見方・考え方、特に数量関係、図形分野に課題が残る。</p>	<p>3年生になり、授業に対する意欲の向上が見られる。 学習の定着度にばらつきがあり、基礎・基本の不十分な生徒に関しては、新しい分野の学習が困難である。</p>
<p>&lt;改善策&gt; 基礎・基本の徹底を図り、数学に対する興味・関心を持たせる。 プリントでの反復練習、少人数授業による個々の指導を行う。 授業規律を守らせ、聞く態度、授業に取り組む姿勢を作るよう留意する。 丁寧に説明をし、こまめに質問を受け付け、理解を十分にさせてから次に進むように気をつける。 業ではワークシート等を取り入れ、考える時間を多くとり、発問に工夫をこらす。 説を丁寧にしたり、複数の解き方を示したりしながら、より深く考えたり、自分の考えを式や証明で表す姿勢を養う。 家庭学習の材料を提示し、各單元ごとに提出物の振り返りをし、家庭学習や提出物に関する意識を高める。</p>		<p>&lt;補充・発展指導&gt; 單元ごとにテストを行い、きめ細かく理解度を把握させ、つまずきに早く気付かせ、学習意欲を高める。 課後の補習や学習教室などを通じて、基礎・基本の定着を図る。 前時の復習を兼ねる小テストを行い、家庭学習への意欲を高める。 着していない生徒には放課後に補習を行い、基礎・基本を定着させる。 「数学の森」などを利用し、数学の歴史などに触れ、興味を持たせる。 入試問題など、高度な問題も取り入れる。</p>

理科 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>自然事象に関して関心があり、実験に対しても意欲がある生徒も多い。 理解力は個人差が大きく、学習内容の定着が十分とはいえない。 実験や視聴覚教材等を取り入れて、興味が持ってわかる授業を工夫をしていく。</p>	<p>自然事象に関する関心があまり高くないが、実験に対しては意欲がある。 理解力の個人差が大きく、学習内容の定着が十分とはいえない。 実験などを多く取り入れ、集団での活動の時間を増やしていく。</p>	<p>自然事象に関する関心や授業に対する意欲の向上が見られる。 基礎・基本の定着が不十分であるため、新しい学習をすることが困難な生徒がいる。 実験などを多く取り入れ、集団での活動の時間を増やしていく。</p>
<p>&lt;改善策&gt; 定期的に宿題を出し、家庭学習をさせることで復習の時間を多くとらせる。(全学年) 練習問題を数多く行い、様々な問題になれるだけでなく、覚えた知識を定着させる。(全学年) 授業の進め方やワークシートを工夫し、生徒自ら図や表を用いて実験・観察のまとめをさせる。(全学年) 言語活動を意識化し、意見発表が充実するように工夫をしていく。(全学年)</p>		<p>&lt;補充・発展指導&gt; 視聴覚教材などを多く用いることで、学習に対する意欲・関心を高める。(全学年) 学習内容の定着が十分でない生徒には、個人的に補習を行い、基礎・基本を定着させる。(全学年) 長期的な指導の中で知識を定着させる。(全学年)</p>

音楽 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>授業規律の定着をはかっている。 男子は変声期にかかってきているためか、声量がない。 鑑賞やプリントなどの机上で行う作業は、落ち着いてできる。</p>	<p>音楽への関心や意欲の差が大きい。 全般的に声量がない。 定期考査では、ワークやプリント学習をすることにより、正答率があがっている。</p>	<p>音楽への関心や意欲の差が大きい。 全般的に声量がない。 定期考査では、ワークやプリント学習をすることにより、正答率があがっている。</p>
<p>&lt;改善策&gt; 毎時間、発声の指導を行い、全学年ほぼ統一したものにし、3年間を見据えて指導していくことにより、より豊かな響きのある声づくりを行う。 表現活動では、自分がどのようにとらえて、どう工夫し取り組んだかを、言語活動を通して自己評価を行う場面を設定し、音楽への意識を向上させ、表現能力を高めていく。 視聴覚教材や話題性のある教材などを取り入れながら、いろんな音楽の楽しさを十分味わえるよう、配慮する。</p>		<p>&lt;補充・発展指導&gt; パート練習の時などに、個別指導を含め、よりきめ細やかな指導を行う。 音楽祭をめざして、授業の中でも指揮者・伴奏者・パートリーダーの育成を図り、自主的に活動させていく。</p>

美術 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
1、概ね美術に関心を持ち、意欲的な参加態度であるが、苦手意識が強い生徒も若干いる。 2、個々により表現能力に大きな差がある。 3、鑑賞の学習では、苦手意識はあるが、前向きに取り組んでいる生徒は多い	1、女子は全般的に美術に関心が高く、意欲的に参加する生徒が多い反対に男子は知的好奇心に乏しく関心意欲は低い。 2、表現能力に大きな差がある。 3、鑑賞の学習では、関心が持てず、理解することが苦手な生徒が多い。	1、概ね美術に関心を持ち、意欲的な参加態度であるが、苦手意識が強い生徒も若干いる。 2、個々により表現能力に大きな差がある。 3、鑑賞の学習では、苦手意識はあるが、前向きに取り組んでいる生徒は多い
<改善策> 1、興味関心の低い生徒に対し、到達目標やわかりやすい目標を、具体的に目で見て確認できるように、作例などで示す。(全学年) 2、言葉やプリントだけでなく、ビデオなど視聴覚教材を取り入れた授業を行う。(全学年) 3、鑑賞では、今現在、話題になっている作家や作品などもとりあげたり、修学旅行と関連させた内容を多く取り入れ、興味・関心の希薄な生徒へ働きかけをする。 4、机間循環を多く取り入れ生徒個々にきめ細かい指導を行う。		<補充・発展指導> 1、技能習得の段階指導では視聴覚教材を積極的に活用する。(全学年) 2、選択教科の時間には油絵や銅板の打ち出しなどを取り入れ、より高度な表現に取りくませる。(3年) 3、より個性の興味・関心に従い、各自が個々に制作計画を立て、材料を用意し自主的に表現制作を行う。(全学年) 4、授業がわからない生徒や作品制作ができあがらなかった生徒に対しては、積極的に放課後に補習を行うことで、全体の底上げを図る。(全学年)

## 保健体育 【学習状況の分析と課題】

1年	2年	3年
<p>全般的に運動に関心を持ち、意欲的に参加している。</p> <p>！男女共に、個人差はあるが小学校での技能習得の積み重ねの不足を感じる生徒が多い事が目立つ。(男女)</p> <p>！ルール理解や技能習得の為の助言により、少しずつではあるが、向上していく傾向がある。真面目に取り組んで、上達したいという意欲は全体的に高い。</p>	<p>運動が好きな生徒が多く、楽しみながら運動に積極的に取り組む姿勢が多く見られる。</p> <p>思考・判断・安全の観点面では目標に達しない生徒が多い。しかし、指示に対しては素直に従うことができる。</p> <p>グループ活動を行う場合には、リーダーとなりうる生徒が少ないため、全体的に行動が遅く、まとまりができてにくい。</p>	<p>全般的に運動に関心を持ち、意欲的に参加しているが、服装の乱れや、集団意識が薄い生徒もいる。</p> <p>課題を明確にできず、スキル習得に時間のかかる生徒が含まれる。</p> <p>スキル習得が苦手な生徒をフォローする生徒がいる反面、周りを理解せず、集団として行うことへの努力継続ができない生徒がいる。</p>
<p>&lt;改善策&gt;</p> <p>言葉だけの説明ではなく、指導段階に合わせてカードでの表示や説明や、図式的な教材を活用する。(1年)</p> <p>教師がしっかり手本を示す。また、習得ができている生徒による演技(技能)も行わせる。そのような活動を通して、段階的な技能習得やお互いに教え合う場を定着させる。(全学年)</p> <p>なぜできないのかの原因を考えさせるために、授業内での発表時間を設ける。その際、他の生徒からも意見を聞く。(全学年)</p> <p>一つの段階をクリアできた時には、良かった点や習得できた理由をハッキリと説明する。また、スキルテスト前には評価内容や注意点を具体的に説明し、テスト後には、個々の習得段階を解説する。(全学年)</p> <p>集合の遅れや隊形の乱れ、服装の乱れなどが安全に運動することへの妨げとなり、大きな怪我にもつながることを、保健分野の授業時に徹底的に指導する。そのことを授業規律の定着につなげ、実技指導時に実践する。(2年, 3年)</p> <p>個人の到達目標を単元カードに記入する。(全学年)</p> <p>体育理論や知識の小テストを計画的に行うことで、家庭での予習や復習の定着を図る。(全学年)</p>		<p>&lt;補充・発展指導&gt;</p> <p>技能習得の段階指導では視聴覚教材を積極的に活用する。(全学年)</p> <p>生徒自身を撮影して、直接データを解説することにより、課題を明確にする。</p> <p>体ほぐし的な運動や体力向上のための内容を計画的に取り入れる。(1年)</p> <p>グループ内でのリーダーを育てるために、授業の進行を部分的に任せる。</p> <p>グループ全体の評価を活用する。(2年, 3年)</p> <p>課題を生徒同士が教えながら習得していく過程を評価することにより、学習意欲を高める。(3年)</p> <p>スポーツテストの結果を分析し、特に劣っている能力に関しては、レベルアップを図るために年間を通して授業に組み込む。(全学年)</p>

## 技術・家庭科 【学習状況の分析と課題】

1年	2年	3年
<p>全体的に授業や課題に意欲的に取り組む姿勢が見られる。</p> <p>問題解決力が不足するところがある。</p> <p>集中力の差が大きく、一斉指導では、教えきれないところがある。</p>	<p>全体的に授業や課題に意欲的に取り組む姿勢が見られる。</p> <p>聞く力が不足するところがある。</p> <p>集中力の差が大きく、一斉指導では、教えきれないところがある。</p>	<p>学習意欲も意欲的な生徒と、そうでない生徒の差が目立ってきている。</p> <p>実習作業において、意欲的に作業に取り組めない生徒もいる。</p> <p>習能力に差が大きく、一斉指導では、教えきれないところがある。</p>

<p>&lt;改善策&gt;          授業導入時、説明・応答を繰り返し内容を理解させる。          例えば、道具の使い方を一行程ずつ丁寧に説明し応答を確認していく。          (1~3年)          実習作業時に、一人一人遅れた生徒を個別に助言を行い、遅れを取り戻すように励ます。(1~3年)          実習作業が進んだ生徒には、より高度な課題を与え、丁寧かつ作品としての完成度を上げるように指導する。          (1~3年)          授業規律を高め、安全に関する説明を理解できるようにする。          (1~3年)</p>	<p>&lt;補充・発展指導&gt;          著しく作業の遅れがある場合、放課後に補習指導を行い、作業内容と、実習の理解を進める。          (1~3年)          机(班)で協力し、相談してお互いに教え合いながら作業を進めさせる。(1~3年)          実習作業時に生徒の動きや、安全な道具の使用法などを教室掲示して、安全確保に努めさせる。          (1~3年)          教師の実演、ビデオ等視覚的な指導を取り入れる。          (1~3年)</p>
--	---

<b>英語</b> 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>生徒、保護者とも、英語の重要性を強く意識している。          定期テストや単元テストの結果は良好で、基礎基本は定着しているといえる。しかし、個人差も出てきている。家庭学習で差がますます開く傾向がある。          英語の授業に対して学習意欲はあるが、家庭学習の定着が課題である。</p>	<p>ほとんどの生徒は、意欲を持って授業に取り組んでおり、家庭学習も定着しつつある。しかし一部には、取り組みの不十分な生徒が見られる。          小テストや単元テストの結果は良好で、基礎基本は定着しているが、個人差がある。          表現の能力(英作文やスピーチなど)に関して、課題のある生徒が多い。</p>	<p>ほとんどの生徒がまじめに授業に取り組んでいる。家庭学習も定着しつつある。          定期テストや単元テストの結果は向上しつつあるが、個人差がある。          リスニングや英作文などの解答の要領がつかめていない生徒が目立つ。</p>
<p>&lt;改善策&gt;          わかりやすい授業のために授業研究をする。指導法について教科で話し合う。机間指導を行い、個々の生徒に、ノートの取り方や文法の間違えやすいところをその場で教えたり、質問に答える。(全学年)          単元テストを実施し、繰り返しによって学力定着をはかる。また、理解不十分な生徒には補習を行う。(全学年)          表現の能力を伸ばすため、身近なことを英文で表現させる活動を増やす。また、ALTと連携し、身近な内容に関する語彙や英文に親しませる。スピーチやインタビューテストなど実践的なコミュニケーション能力をつける活動を定着させる。(全学年)          文法事項を確実に定着させるために、ノートやワーク、プリントの宿題を出し、家庭学習の定着を図る。          (全学年)          まとまった長文に抵抗感がないようになれるさせる。その際、S(主語:誰が)+V(動詞:どうする)+O(目的語:何を)をはっきりとつかみながら的確に内容を把握できるようにさせる。</p>	<p>&lt;補充・発展指導&gt;          学習支援ピアティーチャーの協力を得て毎週水曜日に実施している学習教室で、個々の生徒へのきめ細かな指導を行う。          (全学年)          夏季の補習、試験前の質問教室、昼休みの単語再テスト、選択授業(補充・発展)などで、理解不十分な生徒の支援を行う。          (1、2年)          発展的な学習を望む生徒には、英検などに挑戦するよう促している。そのための補習学習も行っている。          (全学年)          本年度スタートの地域支援本部の取り組み、「サタデースクール」にて補充・発展のための学習教室が開かれている。          教科カウンセリングを通じ、アドバイスを与える。</p>	